

# UBE株式会社 個人投資家向け オンライン会社説明会

UBE株式会社  
(東証プライム:証券コード4208)

2026.3.17 (火)

- ① UBEグループの概要
- ② UBEグループの経営戦略
- ③ 主要スペシャリティ事業の成長戦略
- ④ 機械事業及びセメント関連事業の株式上場
- ⑤ 業績推移・資本政策・その他

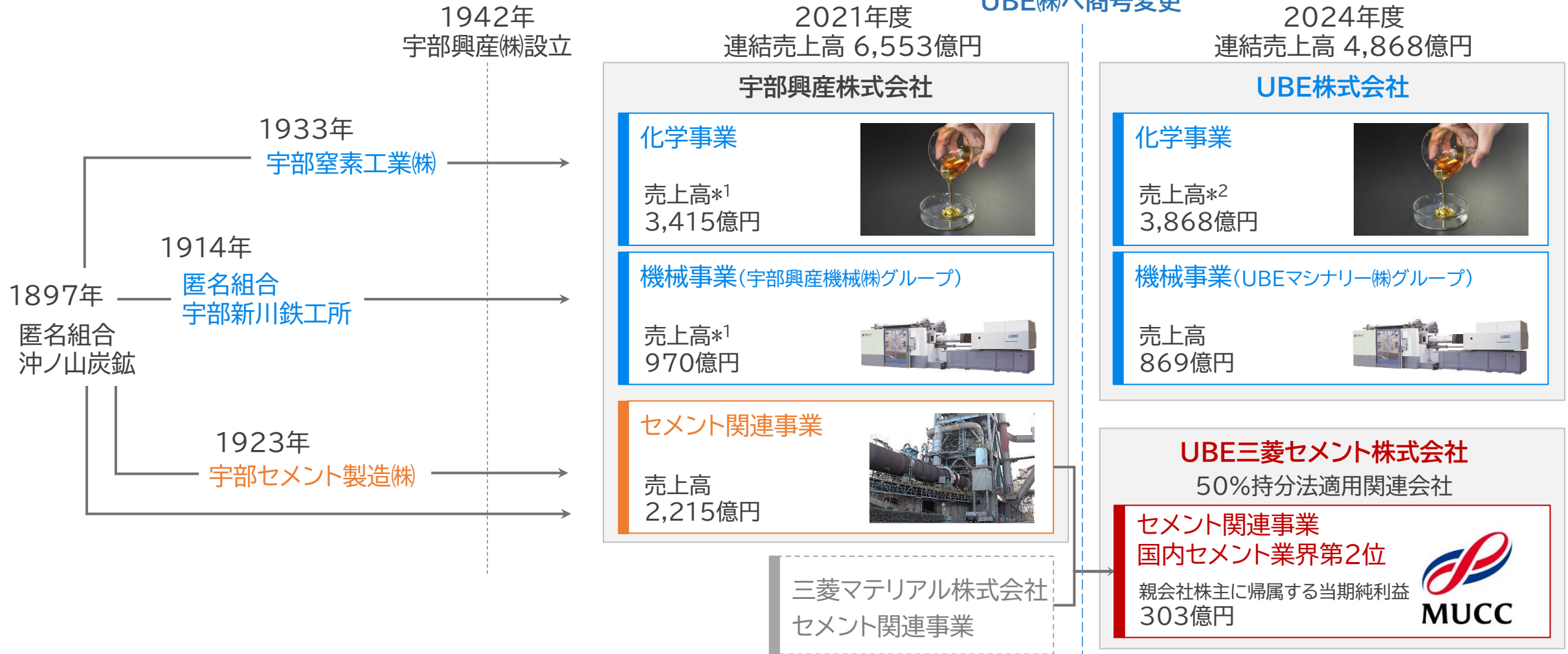
1

# UBEグループの概要



創業の地 山口県宇部市 工場群

社名	UBE株式会社 ※ 2022年4月に宇部興産株式会社から商号変更
創業 設立	1897年6月 1942年3月
資本金	584億円 (2025年3月末)
本社	東京都港区
連結従業員数	7,563人 (2025年3月末)
売上高 営業利益	4,868億円 (2025年3月期) 180億円 (2025年3月期)
事業内容	化学品の製造・販売 機械の製造・販売



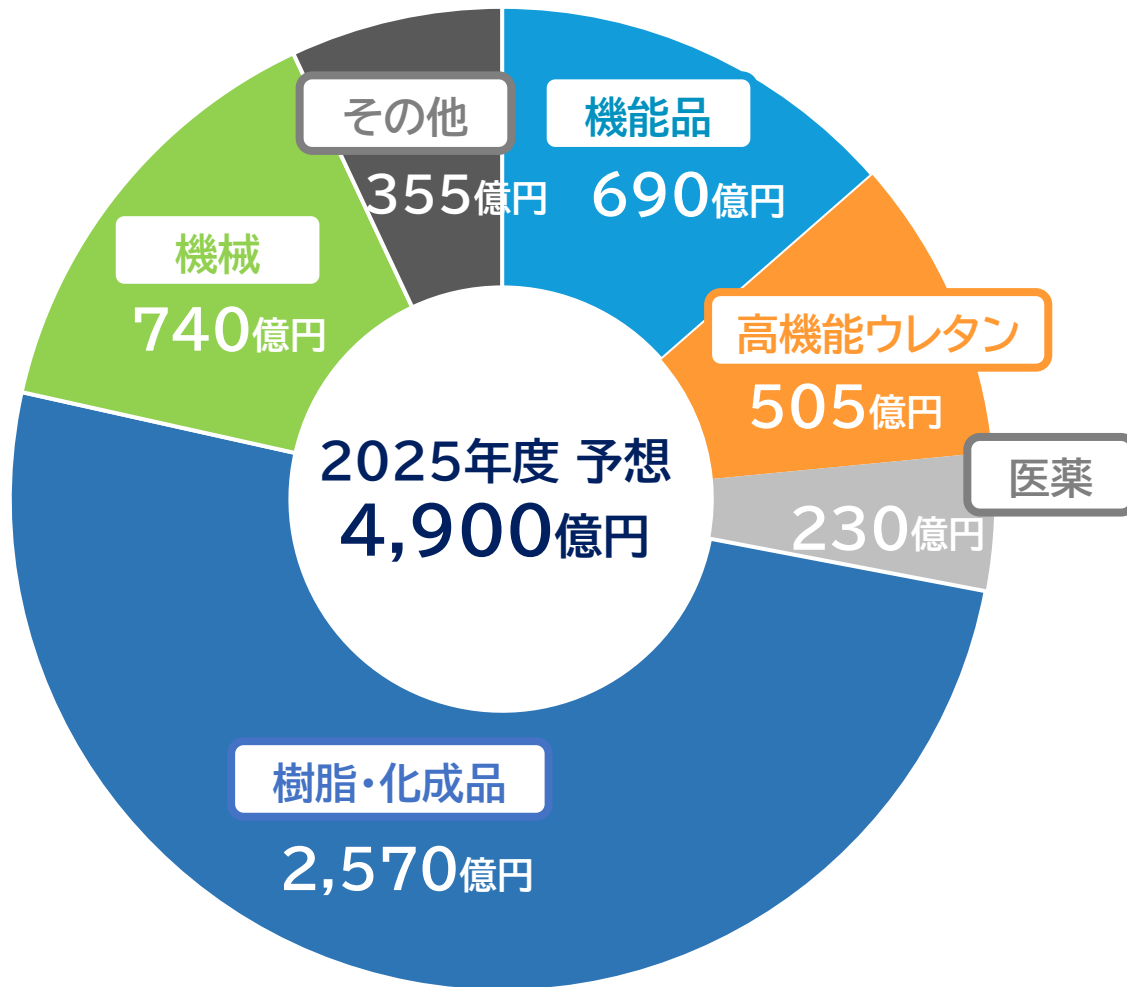
\*1 2021年度時点のセグメント区分に基づく数値

\*2 機能品セグメント、高機能ウレタンセグメント、医薬セグメント、樹脂・化成品セグメントの単純合算

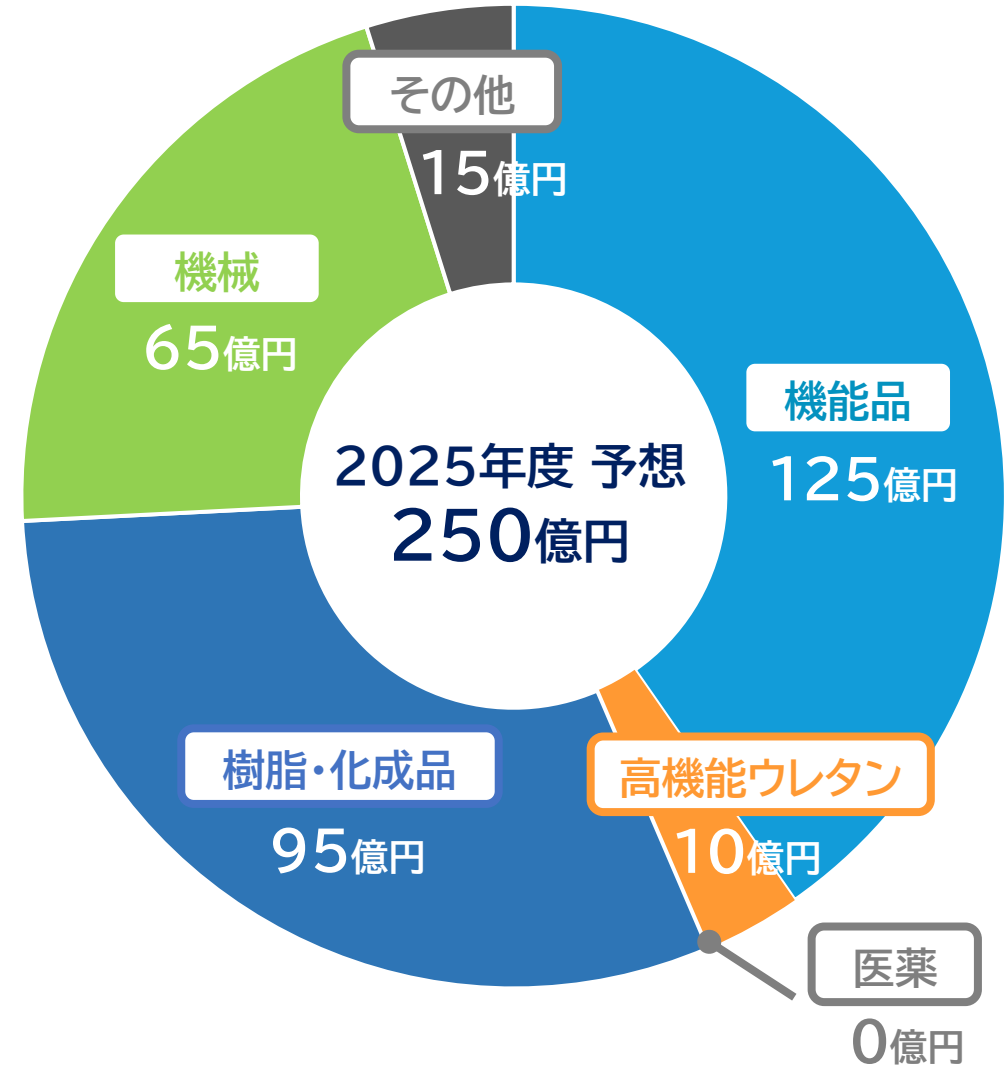
セグメント (2025年度 売上高/営業利益 予想)	主要製品	用途例
<p>機能品</p> <p>690億円 / 125億円</p>	<p>ポリイミド 分離膜 セラミックス セパレータ</p>  <p>ポリイミド 分離膜</p>	<p>大型液晶ディスプレイ、フレキシブル有機ELディスプレイ バイオ燃料(バイオメタン)精製 軸受、放熱基板(電動車向け) リチウムイオン電池セパレータ(電動車向け)</p> 
<p>高機能ウレタン</p> <p>505億円 / 10億円</p>	<p>ウレタンシステムズ 高機能コーティング</p>  <p>高機能コーティング製品 (PCD、PUD)</p>	<p>鉱山機械、半導体製造装置 人工皮革、水系塗料</p> 
<p>医薬</p> <p>230億円 / 0億円</p>	<p>創薬研究 CDMO</p>	<p>創薬研究 原薬・中間体の製造、プロセス開発</p> 
<p>樹脂・化成品</p> <p>2,570億円 / 95億円</p>	<p>コンポジット ナイロンポリマー カプロラクタム・硫安 工業薬品 C1ケミカル エラストマー(合成ゴム)</p>  <p>ナイロンペレット</p>	<p>自動車部材 食品包装用フィルム 衣料用ナイロン繊維・肥料 化学品の原料 リチウムイオン電池電解液 自動車用タイヤ</p> 
<p>機械</p> <p>740億円 / 65億円</p>	<p>成形機 産業機械</p>  <p>射出成形機</p>	<p>自動車部品の成形 運搬機、ミル、橋梁</p> 
<p>その他</p> <p>355億円 / 15億円</p>	<p>電力(自家発電) その他販売子会社等</p>	<p>自家発電、余剰電力の売電 -</p>

(注)セグメント間調整額を除く

## 売上高



## 営業利益



(注)本グラフではセグメント間調整額の記載を省略しているため、セグメント別売上高及び営業利益の合計は全社売上高及び営業利益と一致しない。

モビリティ

自動車電動化・軽量化

高機能化

セラミックス  
軸受・基板

セパレータ  
LiB\*1セパレータ

高機能コーティング  
合成皮革(自動車内装材)  
水系塗料(外装塗料)

C1ケミカル  
(DMC・EMC)  
LiB\*1電解液

コンポジット  
自動車軽量化  
(金属部材置き換え)

ウレタンシステムズ  
タイヤ・ホイール

エラストマー  
タイヤ

\*1 リチウムイオン電池

エネルギー・サステナビリティ

再生可能エネルギー

資源開発

蓄電池

分離膜  
バイオ燃料製造

分離膜  
油田・ガス田  
防爆ガス製造

ポリイミド  
LiB\*1負極用バインダ  
(車載・民生)

ウレタンシステムズ  
鉱山機械  
ガスパイプライン

セパレータ  
AIデータセンター用  
LiC\*2セパレータ

C1ケミカル  
(DMC・EMC)  
ESS等LiB\*1電解液

\*2 リチウムイオンキャパシタ

情報電子

デジタル機器

半導体産業

ポリイミド  
液晶/有機EL  
ディスプレイ材料

フェノール樹脂  
半導体封止材

半導体ガス  
配線エッチングガス

ウレタンシステムズ  
半導体製造装置部材

半導体用高純度薬品  
洗浄液

暮らしと健康

生活

医療

高機能コーティング  
合成皮革(家具・衣料品)  
水系塗料(床材等)

ナイロンポリマー  
食品包装フィルム

医薬  
医薬品

カプロラクタム  
衣料用ナイロン繊維

硫安  
肥料



宇部事業所  
宇部ケミカル工場  
宇部研究所  
医薬研究所

名古屋支店



本社

UBEエラストマー(株)千葉工場  
みらい技術研究所



吉富工場

堺工場  
大阪研究開発センター



## スペイン拠点



## ーUBEグループ主要グローバル拠点ー

## アメリカ拠点



### ▶ 欧州

- スペイン
- ドイツ
- ベルギー
- オランダ
- イギリス
- イタリア

### ▶ 北中米

- 米国
- カナダ
- メキシコ

### ▶ 日本

### ▶ アジア・オセアニア

- タイ
- インド
- 中国
- 台湾
- 韓国
- オーストラリア

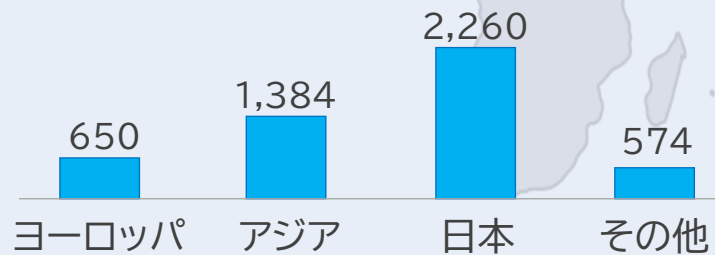
## タイ拠点



### ▶ 南米

- ブラジル

### 地域ごとの売上高(億円)(2024年度)



海外売上高比率 **54%**

2

## UBEグループの経営戦略

### 中期経営計画

## 「UBE Vision 2030 Transformation -2nd Stage-」

# UBEグループ中期経営計画「UBE Vision 2030 Transformation -2nd Stage-」

UBEグループの「2030年の目指す姿」と、これを実現するための2025～2030年度の6カ年の行動計画。

## マテリアリティ

スペシャリティ事業の拡大 ・ 多様な人財の活躍 ・ 労働安全・保安防災 ・ 地球環境問題への対応 ・ 誠実で公正な企業統治

## 中期経営計画における施策

## 2030年の目指す姿

### 1. スペシャリティ事業の成長

- ・ 既存事業の成長加速: ポリイミド、分離膜、セラミックス等生産能力増強。
- ・ 新たな事業の立上げとシナジー創出: 米国DMC・EMC、ウレタンシステムズの早期収益貢献。
- ・ 新たな事業の獲得: 研究開発、M&A(既存事業周辺、スタートアップ)。

### 2. アンモニア、カプロラクタム、ナイロンポリマーの構造改革

- ・ 業績のボラティリティ低下、GHG削減。

### 3. 機械事業、セメント関連事業は自立化の最終ステージとして株式上場を目指す

### 4. サステナビリティ経営の深化

- ・ 人財、地球環境問題、ガバナンスと内部統制。

### 5. 資本政策

- ・ 財務規律の維持、DOE2.5%以上(累進配当を目指す)。

DXへの  
取組み

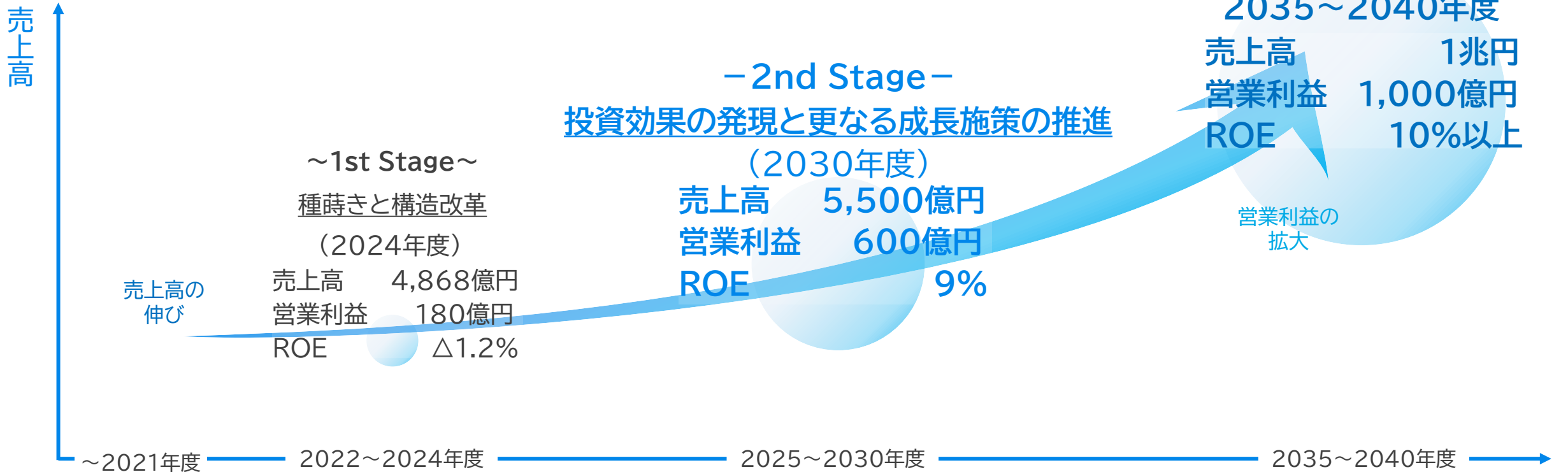
グローバルで  
成長

地球環境と人々の健康、  
そして豊かな未来社会に  
貢献する  
スペシャリティ化学企業

### 数値目標

EBITDA	1,000億円以上
ROS	10%以上
ROE	8%以上
ROIC	6%以上

不確実性の高まる事業環境の中で、経営構造改革を計画的かつ確実に実行するため、中期経営計画は6カ年で策定。



-- ポートフォリオの変革 --



## 事業ポートフォリオ

市場の成長期待、UBEグループの強み、収益性、資本効率等を踏まえて策定した現時点での事業ポートフォリオ。これに基づき経営資源を配分する。ただし、事業ポートフォリオ内の各事業領域の位置付けは適宜見直す。

事業ポートフォリオ区分		対象事業領域
<b>スペシャリティ事業</b>  技術力やバリューチェーンにおける当社の強みをベースに付加価値を創出し、高収益性を実現できる事業。今後一層の成長・拡大を目指す。	高収益・高成長	<u>ポリイミド</u> 、 <u>分離膜</u> 、セラミックス
	戦略的拡大	フェノール樹脂、半導体ガス、セパレータ、高機能コーティング、 <u>ウレタンシステムズ</u> 、医薬、C1ケミカル、半導体用高純度薬品
	安定収益・高キャッシュフロー	エラストマー、ポリエチレンフィルム
<b>構造改革事業</b>  ROS、ROIC が低く、合理化・事業の立て直しを要する事業。徹底的なコスト削減・販売価格是正等、損益回復に向けて抜本的な対策を推進し、スペシャリティ事業へ移行させる。諸対策によっても損益が改善しない事業は、撤退・縮小する。		ナイロンポリマー、コンポジット、カプロラクタム・硫安、工業薬品、樹脂加工品

ポリイミド、分離膜、セラミックス、C1ケミカル等の新製造設備を着実に稼働。買収したウレタンシステムズ事業を確実に統合。シナジー創出を含めグローバルに収益を拡大。本中期経営計画においてもスペシャルティ事業への積極投資を継続。

(年度)

主な成長投資*			戦略	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
既存	ポリイミド	原料製造設備	60%増	新規開発品の上市 設備投資効果の最大化	▼稼働開始						
		フィルム製造設備	20%増								▼稼働予定
	分離膜	中空糸、モジュール製造設備	80%増	環境・エネルギー分野の事業拡大 モジュールの改良・開発、新規膜開発	▼稼働開始						
		中空糸、モジュール製造設備	増設								
	セラミックス	セラミックス製造設備	50%増	軸受と基板向け拡販による事業拡大 新製品・新グレードの開発			▼稼働予定				
		セラミックス製造設備	増設								
	フェノール樹脂	フェノール樹脂製造設備	20%増	高機能・高品質な製品で半導体市場の成長へ貢献	▼稼働開始						
		フェノール樹脂製造設備	増設								
	セパレータ	セパレータ製造設備	30%増	HEV向け案件の獲得でシェア向上 非車載用途での展開			▼稼働予定				
		米国PCD製造設備	新設								
高機能コーティング	タイPCD製造設備	増設	PCD・PUDを中核に更なる成長・スペシャルティ化 ウレタンシステムズとのシナジー創出			▼着工予定	▼着工予定	▼着工予定			
	タイPUD製造設備	新設									▼着工予定
	第六医薬品工場	新設									▼着工予定
エラストマー	エラストマー製造設備	増設	高付加価値化を推進							▼着工予定	
C1ケミカル	米国DMC・EMC工場建設	DMC10万トン EMC4万トン	米国唯一の工場として、安定生産・安定供給				▼稼働予定				
ウレタンシステムズ	ウレタンシステムズ事業取得	新規事業取得	高度で多様なソリューションを提供 C1ケミカル、高機能コーティングとのシナジー発現		▼事業取得						
M&A等											

\* 青色で記載したものは本中期経営計画で実施する投資案件。

■中国企業の過剰供給等の影響により事業環境が悪化し、収益の改善が見込まれない事業について、縮小・撤退を実施

実施する施策

- ✓ **タイ**  
 2026年3月 カプロラクタム停止、ナイロンポリマー縮小
- ✓ **日本**  
 2027年3月 カプロラクタム、ナイロンポリマー停止  
 2028年3月 アンモニア停止
- ✓ **スペイン**  
 カプロラクタム、ナイロンポリマーともに、環境貢献型製品の拡大を図りながら事業継続

関連費用

- **減損損失、関連事業損失**  
 328億円  
 特別損失として2024年度に計上済み
- **解体撤去費用**  
 約300億円  
 設備停止後、工事の進捗に伴い数年間にわたり計上

期待する効果



**業績の安定化、収益性の改善**

→市況(損益)変動が大きく、収益性も低下した対象事業が業績に与える影響を抑制  
 損益改善が見込まれる



**GHG排出量を大幅削減、2030年度削減目標(2013年度比50%削減)を前倒しで達成へ**

→GHG排出量の多いアンモニア、カプロラクタムの生産を停止することで、  
 2028年度に65%削減を達成できる見込み(2013年度比)。

3

## 主要スペシャリティ事業の成長戦略



ポリイミド



分離膜



ウレタンシステムズ

UBEのポリイミドは超耐熱性などの強みを活かして  
ディスプレイ材料として高いシェアを獲得

- テレビなどの液晶ディスプレイ向け



世界  
トップシェア

- フレキシブル有機ELディスプレイ向け



米国スマホ、  
ハイエンドの  
中国スマホ等で  
継続採用

自社原料と独自の成形加工技術で  
差別化された製品を提供

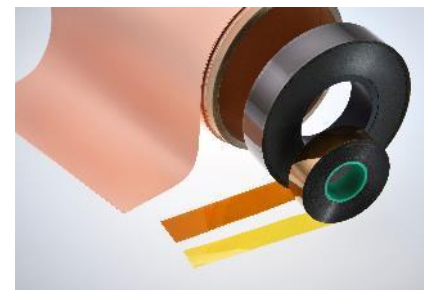
〈製品特性・強み〉

- 自社原料と独自技術により、耐熱性、耐薬品性に優れる。

ディスプレイ市場の成長は継続的に拡大

〈市場環境〉

- 液晶ディスプレイは緩やかな成長が継続。
- 有機ELディスプレイはスマートフォンに加え、PC・タブレット、車載用途でも採用拡大。

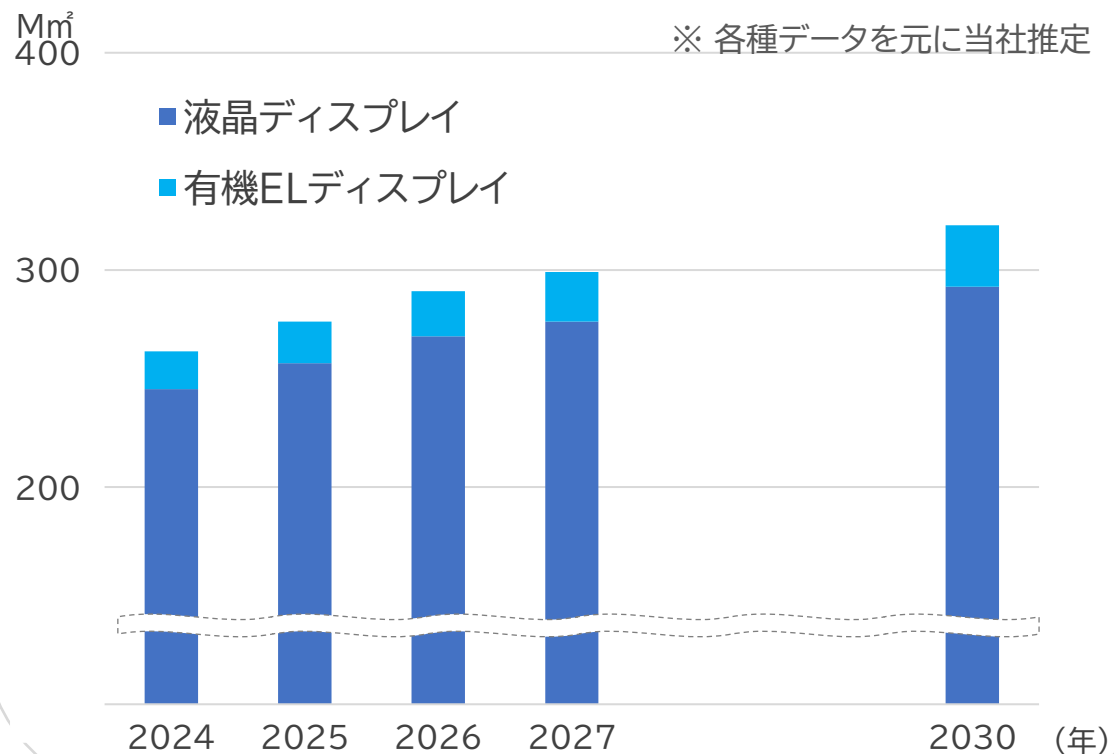


フィルム状のポリイミド(左)と液状のポリイミド(右)

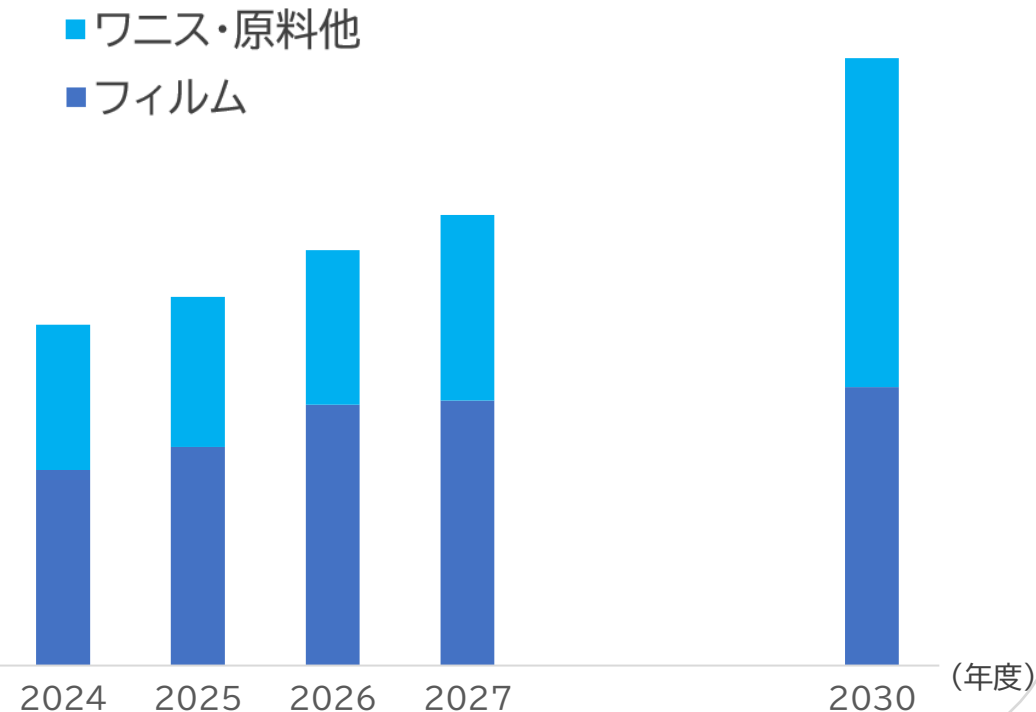
## 成長戦略

- 世界のディスプレイ市場は今後も安定的に成長
- 原料の新設備が営業運転を開始(生産能力60%増)。
- フィルムの新設備は、認証取得後速やかに営業運転開始予定(生産能力 20%増)。
- 次世代ディスプレイ材料、モビリティや半導体向け新規材料の開発を推進。

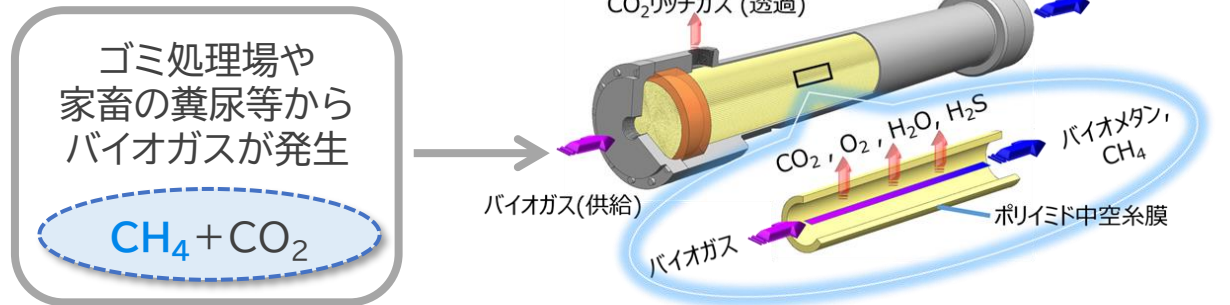
### ディスプレイ市場(面積)の成長見通し



### ポリイミド事業 売上高推移



## ゴミ処理場や家畜の糞尿から発生する バイオガスからバイオメタンを製造する際に使用



バイオガスの中からバイオメタン $\text{CH}_4$ を抽出天然ガス代替として利用



分離膜



分離膜モジュール内部の  
ポリイミド中空糸

## 独自のポリイミド技術によって 優れた製品特性を実現

### 〈製品特性・強み〉

- 独自のポリイミド技術による優れた耐久性、ガス透過・分離性
- グローバルで**200プラントを超える**採用実績

## 再生可能エネルギー活用に向けた 各国の政策導入が成長を後押し

### 〈市場環境〉

- 中長期的に欧州、北米でのバイオメタン需要は拡大。
- アジア・南米でも環境配慮規制・政策の導入機運。

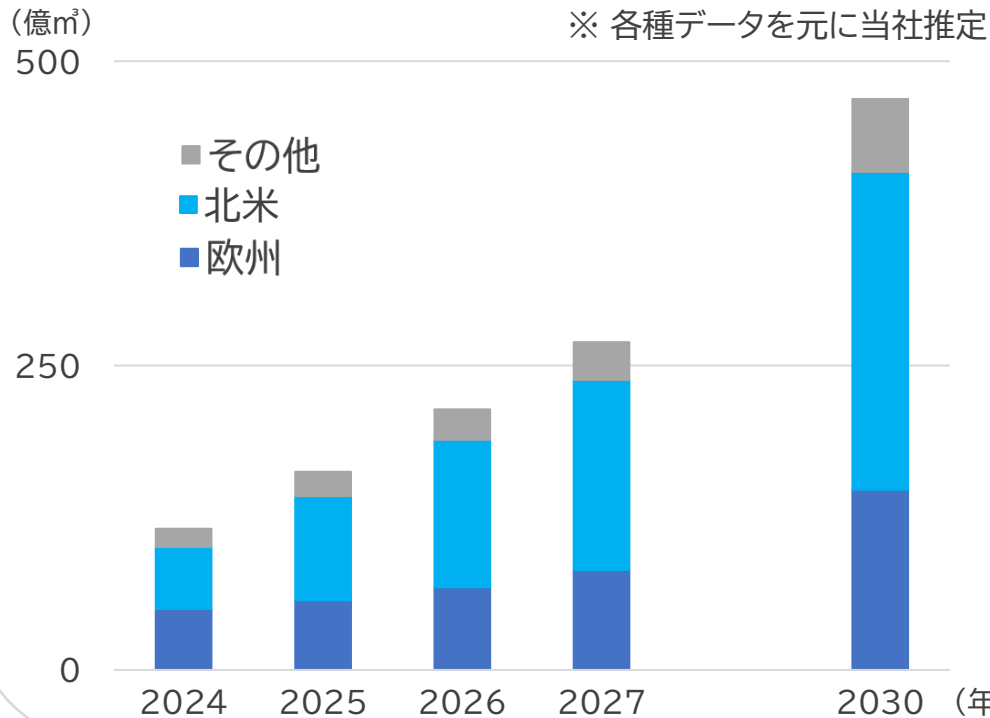


分離膜モジュールが組み込まれた  
バイオメタン製造プラントのイメージ

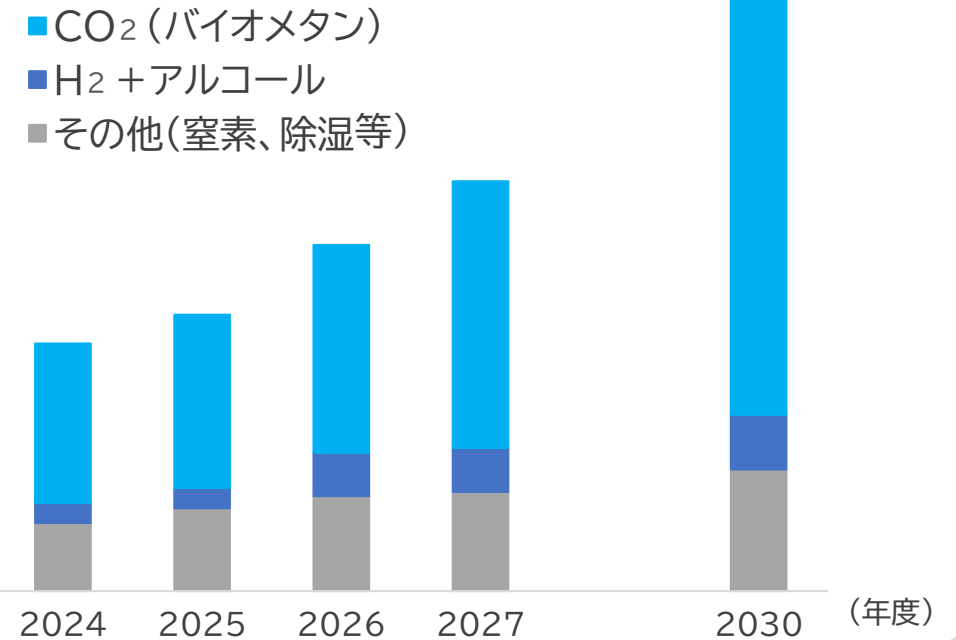
成長戦略

- 能力増強を進め、2030年度に向けて売上・利益を拡大
- 世界のバイオメタン生産量は2030年までに大幅に拡大
- 新製造設備が営業運転を開始(生産能力 80%増)。
- 2030年度までの現中計期間内に更なる設備投資も計画中。

バイオメタン生産量



分離膜事業 売上高推移



ドイツLANXESS社からウレタンシステムズ事業を買収(2025年4月)。ゴムのような柔軟性とプラスチックの強度を備える高機能ウレタン樹脂製品を「素材」と「サービス」のセットで提供。  
顧客課題をカスタムメイドで解決するソリューション型の事業をグローバルで展開。

### 事業の歴史



**70** 年以上



高機能熱硬化性  
ウレタンエラストマー向け **市場シェア**

**米国シェア No. 1**

### グローバルな供給網



**世界 5** 工場



地域特性も踏まえた  
顧客ニーズに迅速に対応

**テクニカル  
センター 3** か所

### 多様な専門人材



**400** 名



### 製品ポートフォリオ

**環境対応  
グレード※ No. 1**

### 強固な顧客基盤



**顧客数 > 700**



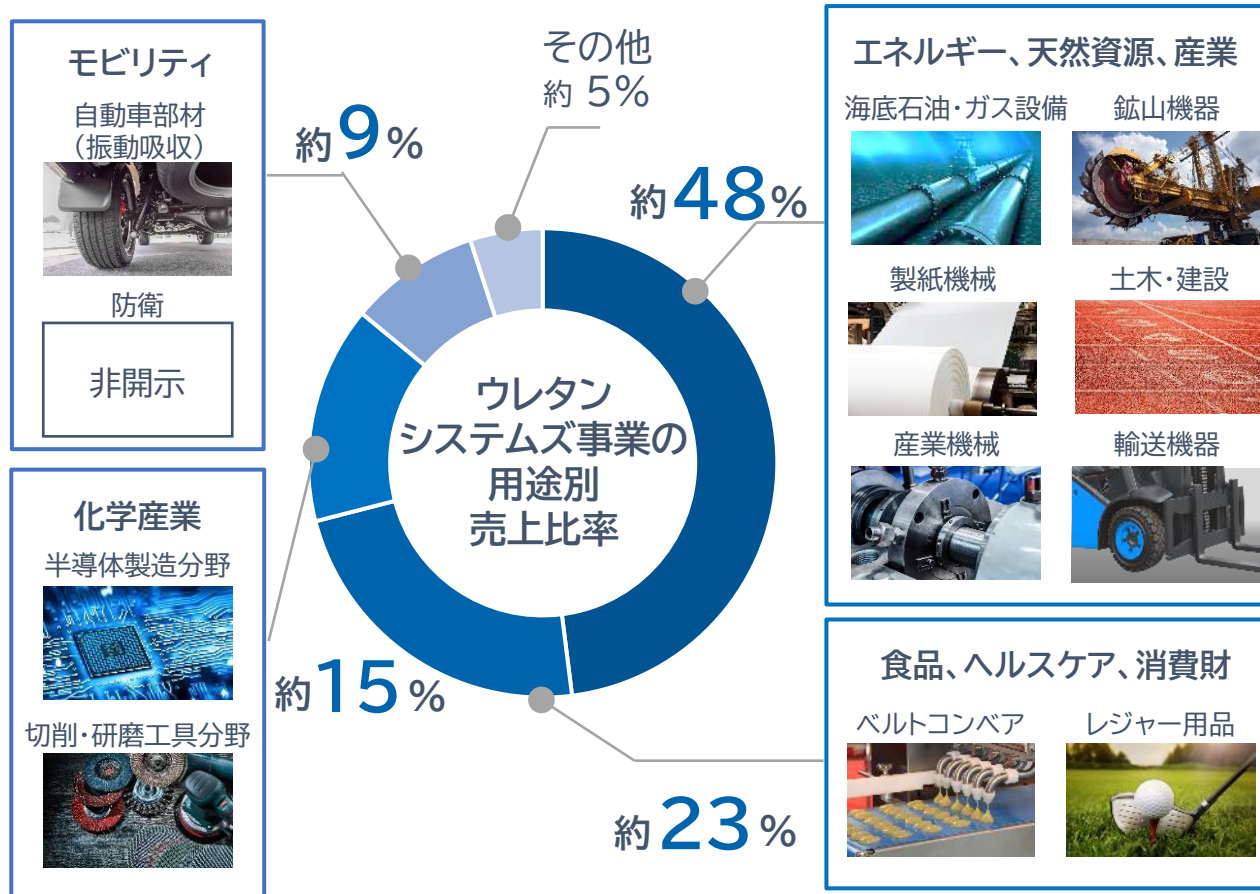
### 地域別売上高比率

**アメリカ大陸 60%**

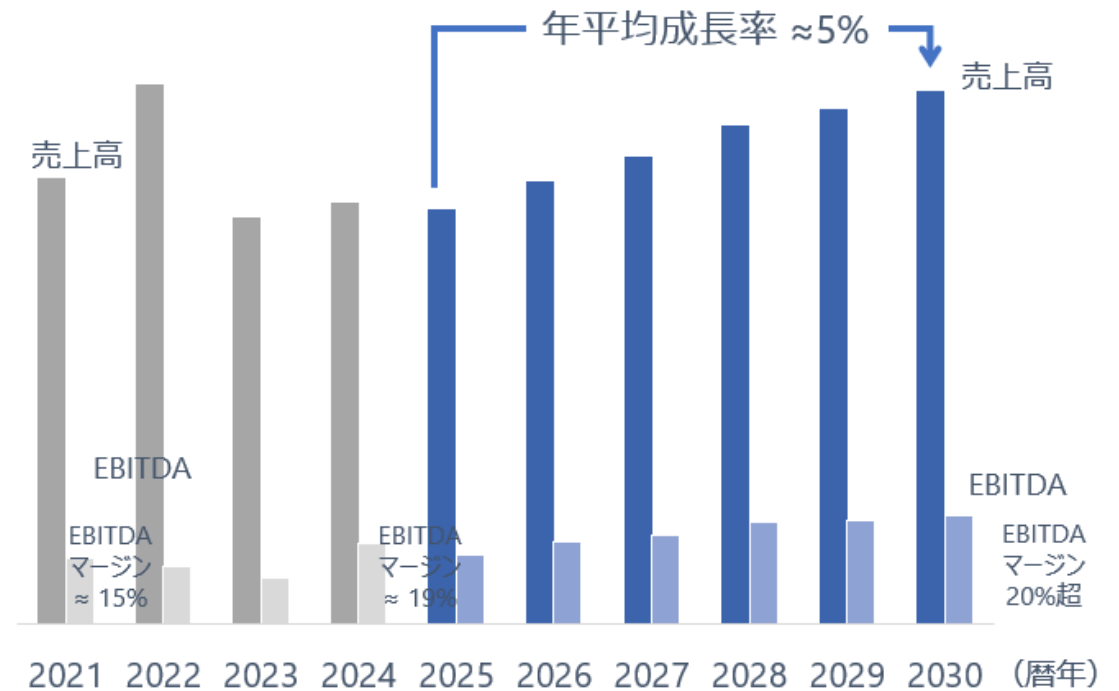


2030年に向けて、北米を中心とする先端産業向けの高成長、開発案件の取り込み等により年率5%程度の成長を見込む

ウレタンシステムズ事業の特長:幅広い用途に貢献



売上高(左)およびEBITDA(右)推移



※市場成長率(年平均成長率:2024 - 2028年)は市場調査結果を基に当社推算

米国においてDMC・EMCプラントを建設中。UBEグループのグローバルな成長を牽引する新拠点を目指す。

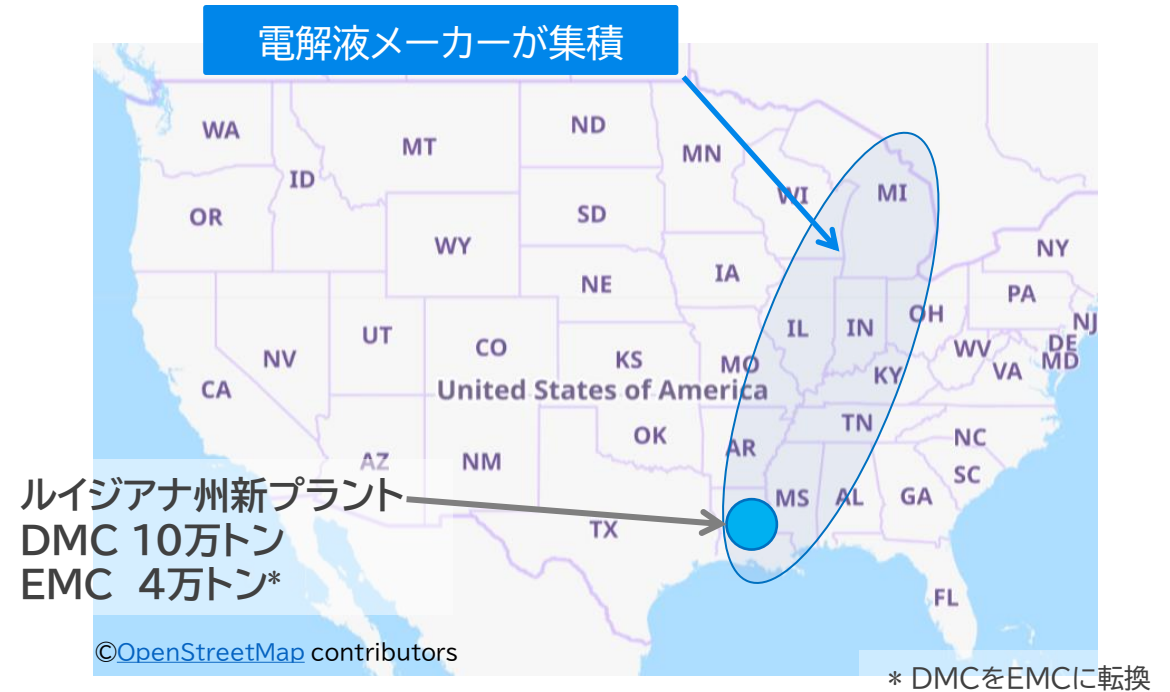
### 製品特性・強み

- DMC・EMCはリチウムイオン電池の電解液溶剤の主要成分。
- 独自製法によりコスト競争力に優れ、かつ高純度
- サプライヤーはUBEグループと中国企業のみ



### 新プラント建設の狙い

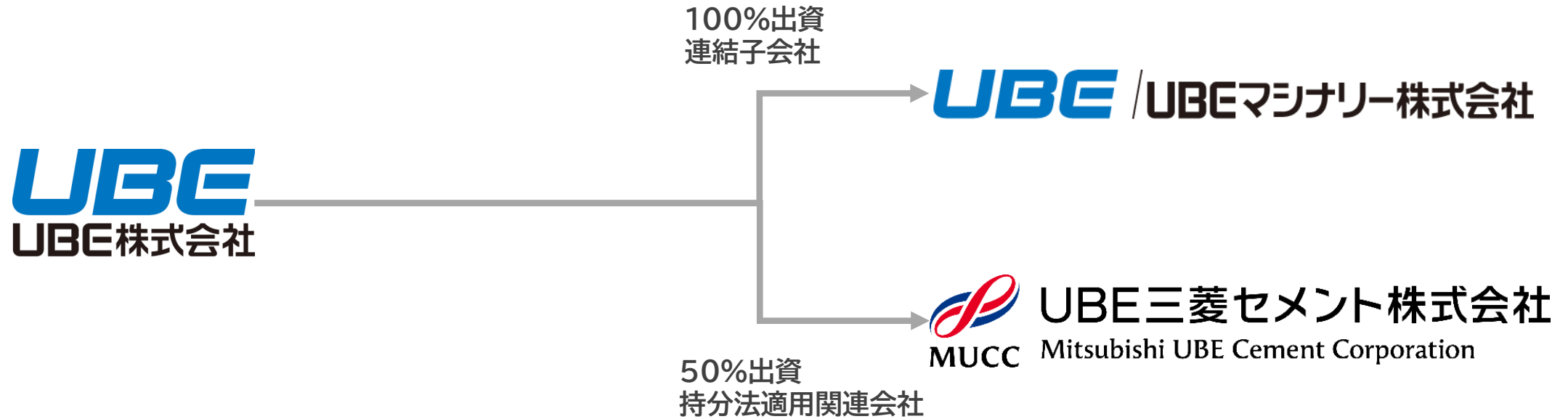
- 米国はDMCをUBEグループか中国からの輸入に依存。
- 米国の安価な天然ガスを活用し高いコスト競争力を実現。
- 米国**初かつ唯一**のサプライヤーとして米国需要を獲得。



4

## 機械事業及びセメント関連事業の株式上場

機械事業とセメント関連事業について、中期経営計画期間中の株式上場に向けた準備を開始



### ← 株式上場の狙い →

#### ➤ UBEにとっては…

- ポートフォリオ改革を遂行。
- スペシャリティ化学企業としての成長に集中。
- 上場に伴うキャッシュインを期待。

#### ➤ UBEマシナリー、UBE三菱セメントにとっては…

- 自律的、機動的な運営体制へ移行。
- 変化の激しい事業環境への対応力を高め、それぞれが企業価値の向上を目指す。

UBEマシナリー(株)で手掛ける機械事業。機械製品の販売に加えアフターサービスに注力し、安定した収益を獲得。

成形機

- 自動車等の大型部品を生み出す成形機
- 自動車の電動化など時代のニーズに応える成形機を開発

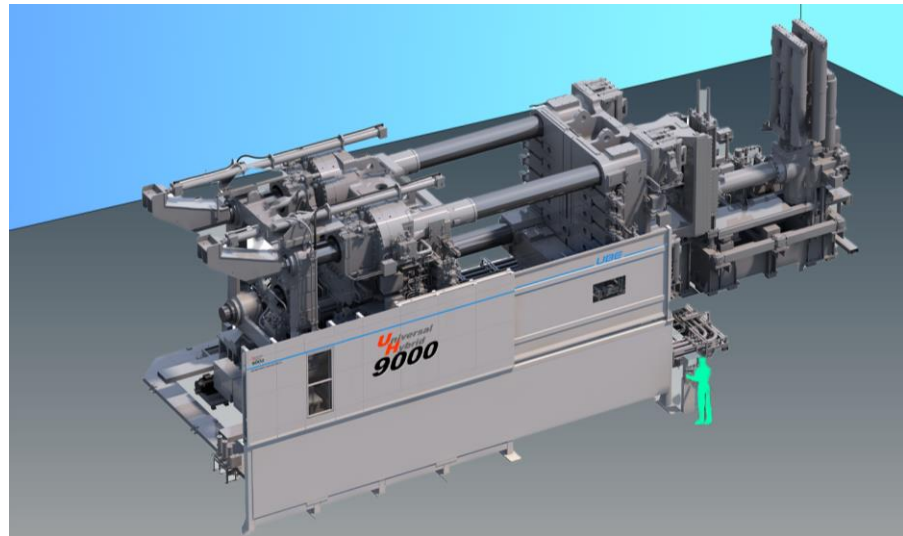


産業機械

- 発電所等で使用される大型の産業機械
- 洋上風力発電関連設備など環境新市場へ参入



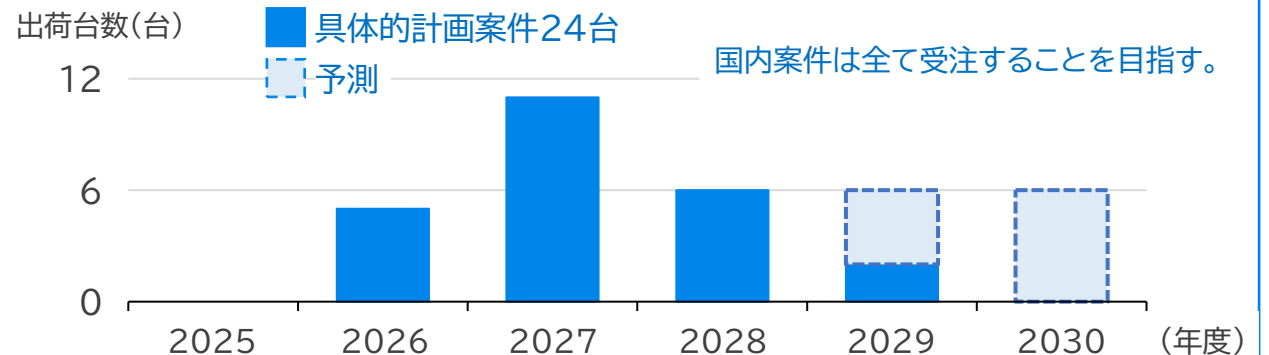
Topic: ギガキャスト用超大型ダイカストマシン



「ギガキャスト」対応の超大型マシン。複数の部品で構成される自動車の車体(アンダーボディ)などを1つの部品として一体成形することを可能にする。

- UBEマシナリー機の強み/狙い
  - 独自の技術による高速、高充填、高速立ち上がりを実現。
  - イニシャル投資額のみでなく、ランニングコストの低減を訴求。

ギガキャスト市場見通しー日系自動車メーカーの計画



国内セメント事業の基盤を強化し、創出されるキャッシュ・フローを成長事業に集中投下。

米国事業を中心とした成長

- 成長ドライバーとしての米国事業
  - ・ 適正価格の維持と骨材資源の確保により収益基盤を強化。
- 国内基盤の安定化推進
  - ・ セメントの価格改定と熱エネルギーコストの低減を推進。
- GHG排出量削減の取組み
  - ・ カーボンニュートラルの業界トップランナーを目指す。



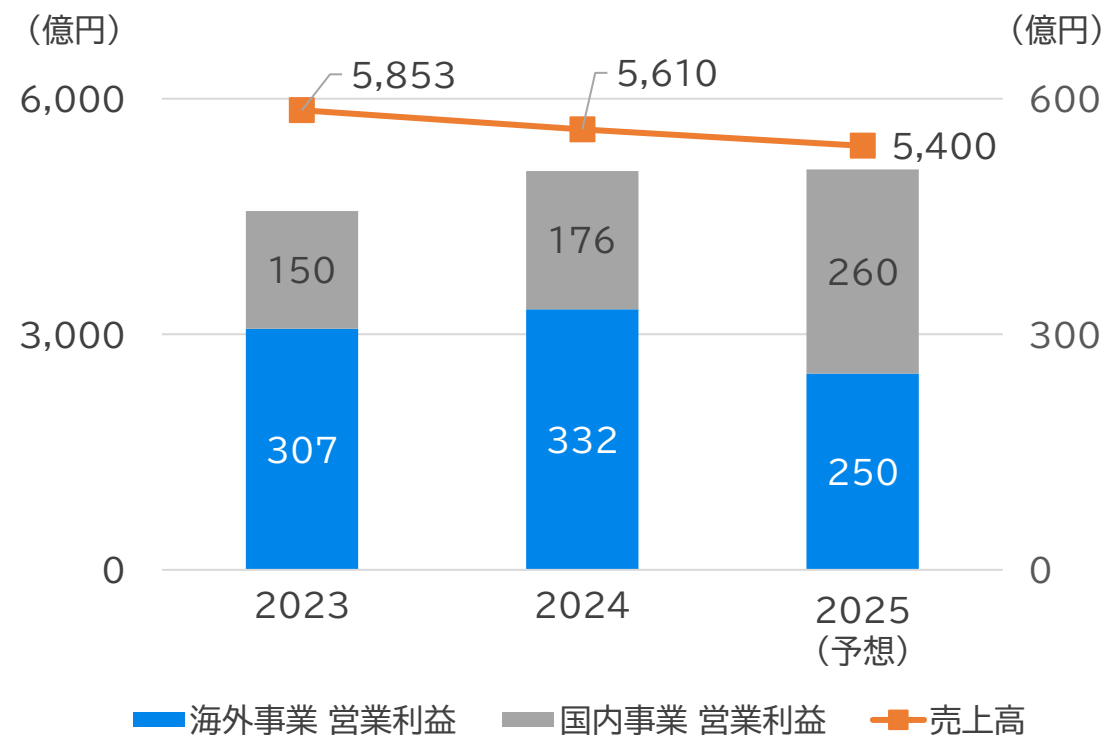
米国三菱セメント社  
クッシュエンベリー工場 プラント



ロバートソン・レディ・ミックス社  
ミキサー車(米国生コン事業)

UBE三菱セメントグループ業績推移

- 縮小する国内市場においても価格是正等により安定した利益を獲得しながら、海外事業をドライバーとした成長を目指す。



5

業績推移・資本政策・その他

▶ スペシャルティ事業の成長と機械事業及びセメント関連事業の自立化に取り組み、EBITDA 1,000億円以上等の目標を目指す。

	2024年 実績	2025年度	2026年度	2027年度	2030年度	(単位:億円)	2030年度目標 主要項目
売上高	4,868	4,900	5,450	5,450	5,500		EBITDA 1,000億円以上
EBITDA	455	550	700	800	1,150		売上高営業利益率 (ROS) 10%以上
営業利益	180	250	320	400	600		自己資本当期 純利益率(ROE) 8%以上
経常利益	224	375	415	450	650		投下資本利益率 (ROIC) 6%以上
特別損益	△333	△45	△20	△35	△55		
構造改革費用	△313	－	－	△30	△55		
親会社株主に帰属する当期純利益	△48	275	300	370	450		

### ■ スペシャルティ事業の成長

- ・ スペシャルティ事業をグローバルに展開し、成長を加速。
- ・ アンモニア、カプロラクタム、ナイロンポリマーは生産撤退・縮小。設備の解体・撤去費用を特別損失として計上。

### ■ 機械事業及びセメント関連事業の自立化

- ・ UBEマシナリー社、UBE三菱セメント社は、本中期経営計画期間中に株式上場を目指す。
- ・ これにより営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は減少するものの、スペシャルティ事業の成長がこれを上回る。

➤ 財務の健全性を維持しつつ、スペシャリティ事業への成長投資を加速。

	(単位:億円)				
	2024年度 実績	2025年度	2026年度	2027年度	2030年度
総資産	8,657	9,500	10,050	10,300	9,500
自己資本	3,951	4,100	4,300	4,550	5,150
有利子負債	3,305	3,800	4,100	4,200	3,000
D/Eレシオ(倍)	0.84	0.93	0.95	0.92	0.58
	(単位:%)				
EBITDAマージン	9.3	11.2	12.8	14.7	20.9
売上高営業利益率(ROS)	3.7	5.1	5.9	7.3	11.0
自己資本当期純利益率(ROE)	△1.2	6.8	7.1	8.4	9.0
投下資本利益率(ROIC)	3.0	4.4	4.8	5.2	7.0

2030年度目標  
主要項目

EBITDA  
1,000億円以上

売上高営業利益率  
(ROS)  
10%以上

自己資本当期  
純利益率(ROE)  
8%以上

投下資本利益率  
(ROIC)  
6%以上

┃ バランスシートの健全性

- 積極的な投資により一時的にバランスシートに負荷がかかるものの、財務規律を堅持。

┃ 経営指標の向上

- スペシャリティ事業の成長によってROEが改善、2027年度に8%超、2030年度に9%へ。
- EBITDA、ROICも経営指標として重視。

(単位:億円)

	2024年度(実績)		2025年度		2026年度		2027年度		2030年度	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
機能品	662	117	690	125	820	155	890	195	1,125	300
高機能ウレタン	156	△2	505	10	670	30	690	35	800	65
医薬	315	12	230	0	250	10	270	15	340	45
樹脂・化成品	2,736	△7	2,570	95	2,790	100	2,635	120	2,650	215
機械	869	79	740	65	785	65	825	75	—	—
その他	392	21	355	15	390	20	395	20	840	55
調整額	△261	△38	△190	△60	△255	△60	△255	△60	△255	△80
合計	4,868	180	4,900	250	5,450	320	5,450	400	5,500	600

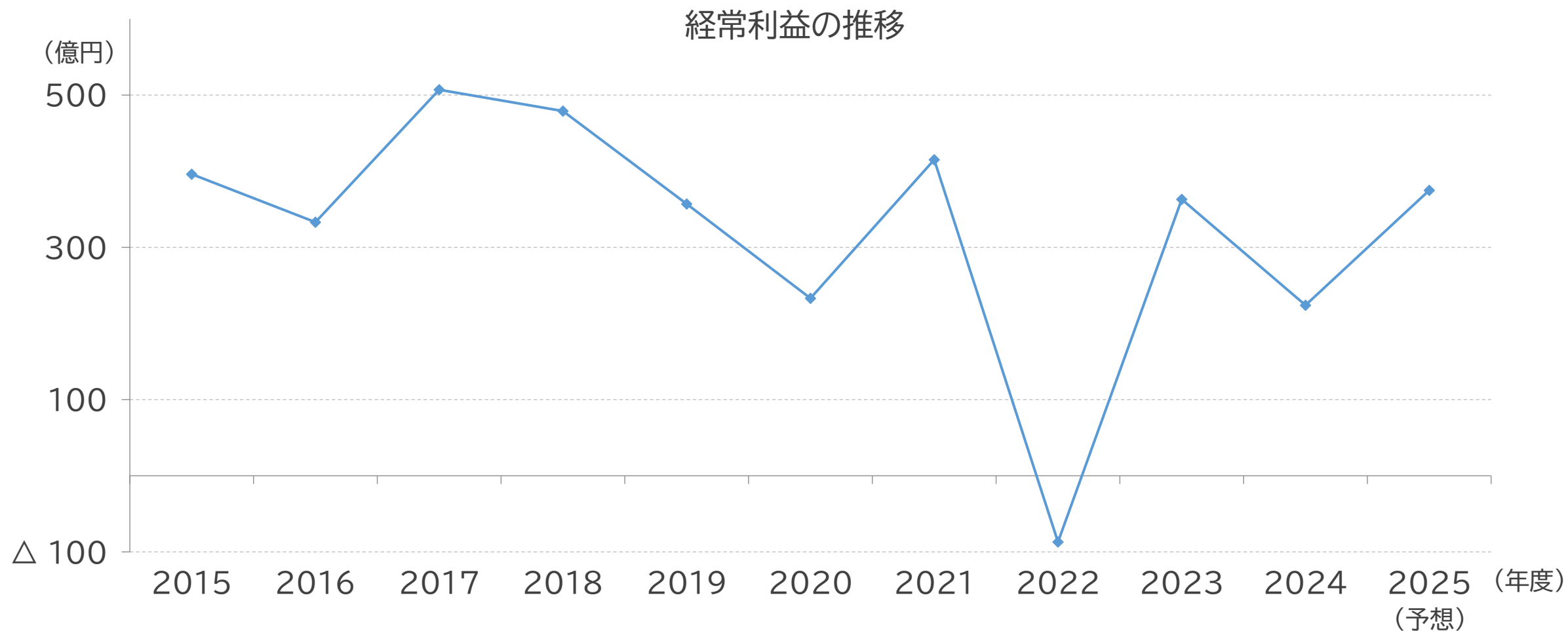
(参考) スペシャルティ事業と構造改革事業の比率\*

(単位:%)

スペシャルティ事業	50	100	50	90	55	70	60	70	75	85
構造改革事業	50	(損失)	50	10	45	30	40	30	25	15

\*2024年度数値は新しいポートフォリオ区分で組み替えたもの

過去10年間において、セメント関連事業が石炭価格高騰等の影響を受け多額の損失を計上し赤字となった2022年度を除き、不況下においても着実に利益を確保している。



ー キャッシュ・アロケーション ー

本中期経営計画6カ年では、営業キャッシュフローと資産売却等により資金を確保し、スペシャリティ事業へ積極投資。

ー本中期経営計画(2025~2030年度)ー

キャッシュイン

営業CF*	4,300億円
資金売却ほか	1,450億円
2024年度末 手元キャッシュ	1,154億円



キャッシュアウト

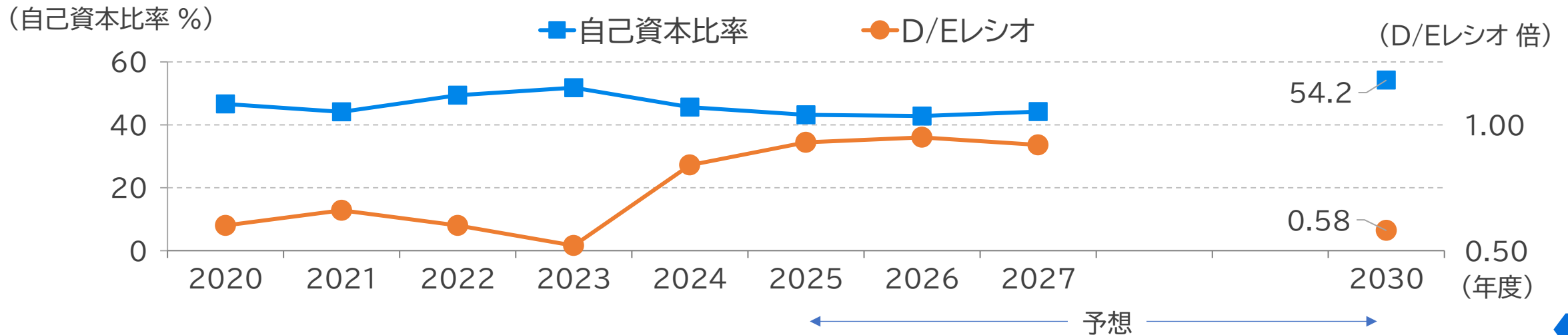
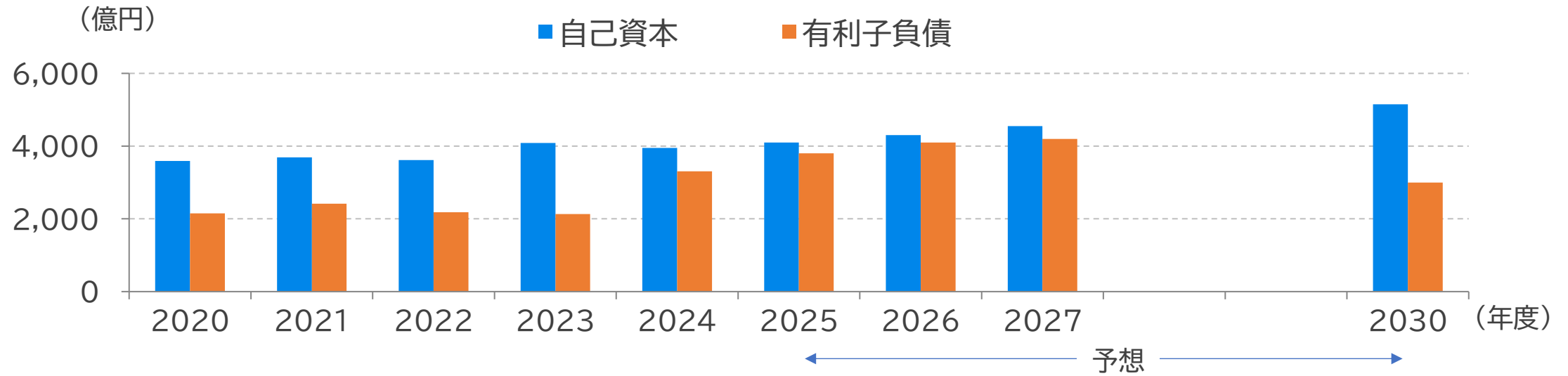
設備投資	2,750億円
投融资 (M&Aを含む)	1,850億円
研究開発費	850億円
株主還元	700億円
負債返済	350億円
2030年度末 手元キャッシュ	400億円

スペシャリティ  
構造改革  
その他

75%  
10%  
15%

\* 研究開発投資前の営業キャッシュフロー

大きな設備投資や事業買収を実施しても、財務体質は健全な水準を維持。



## 株主還元

安定配当を基本方針とし、株主資本配当率(DOE)を2.5%以上と設定。  
中期経営計画の進捗状況を見極めたうえで、後半3カ年には引き上げを目指す。

前中期経営計画

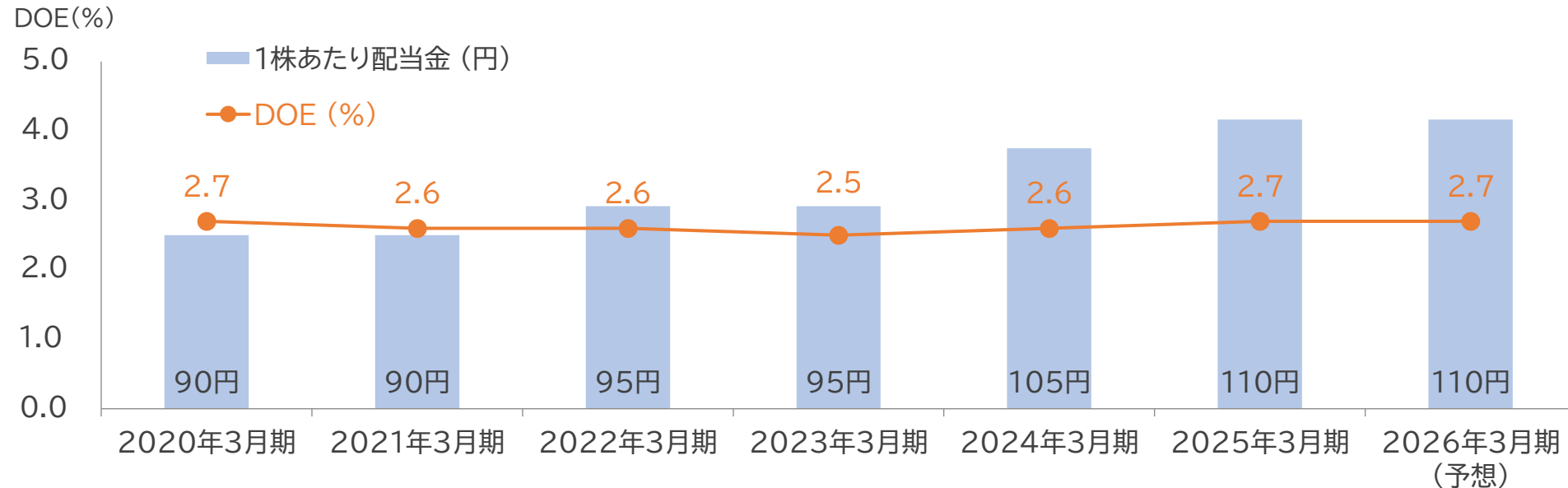
1st Stage(2022~2024年度)

株主資本配当率(DOE) 2.5%以上  
連結総還元性向 30%以上(3カ年平均)

現中期経営計画

2nd Stage(2025~2030年度)

**株主資本配当率 2.5%以上**  
(累進配当を目指す)





本資料における将来の見通しに関する記載は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因の変化によって見通しと大きく異なる場合もありえますことをご承知願います。そのような要因としては、主要市場の経済状況、製品の需給、原燃料価格、金利、為替相場などがあります。但し、業績に影響を及ぼす要因はこれらに限定されるものではありません。本資料の著作権は当社に帰属します。本資料のいかなる部分も書面による当社の事前の承諾なく、複製又は転用などを行うことはできません。

➤ UBEグループが取り組む3つの地球環境問題

- ①カーボンニュートラル
- ②サーキュラーエコノミー
- ③ネイチャーポジティブ

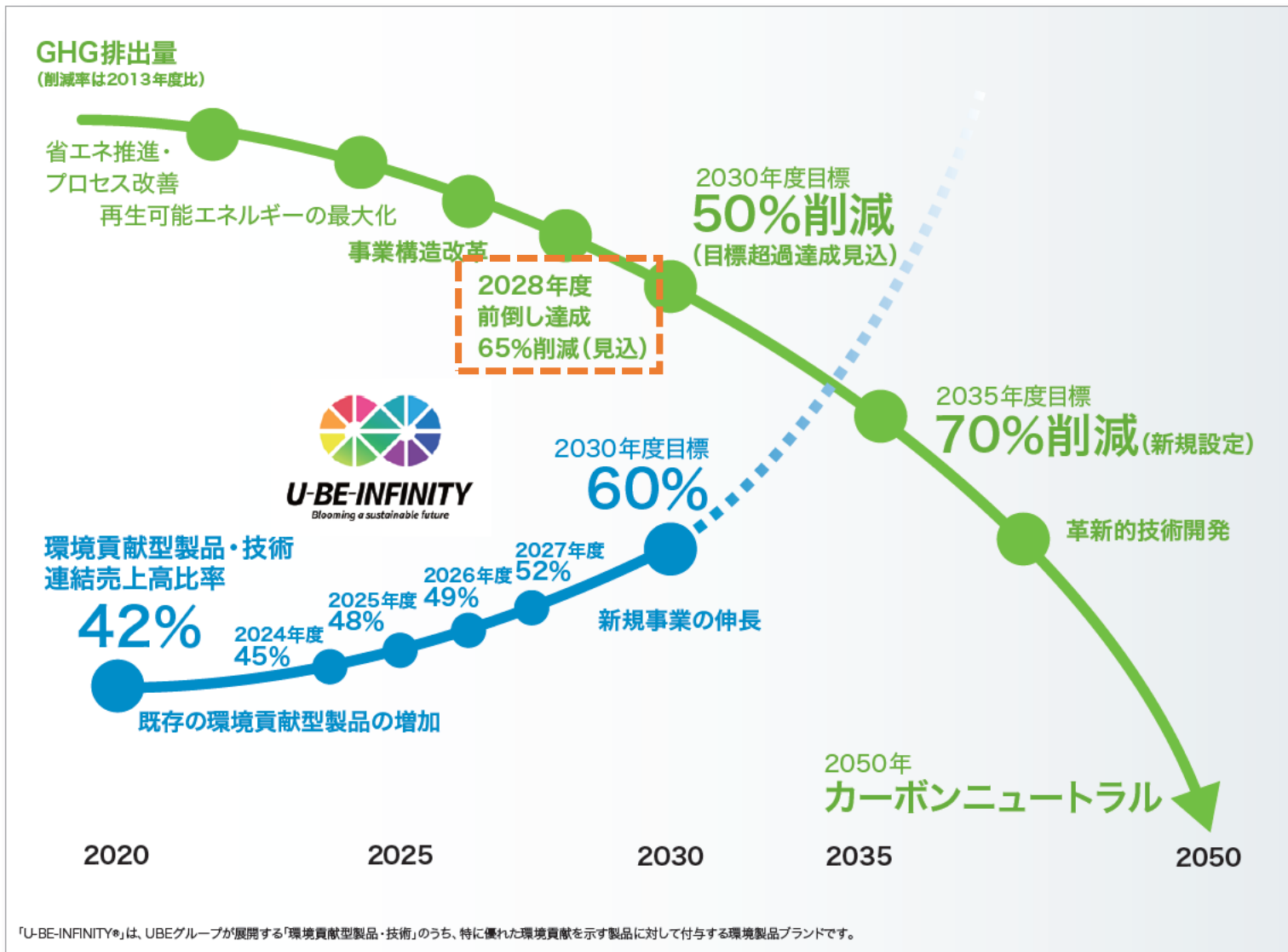
• GHG排出量削減目標(2013年度比)

2030年度 **50%削減**  
 (構造改革の早期化により前倒し達成見込み)

2035年度 **70%削減**

• 環境貢献型製品・技術の連結売上高比率

**60%以上**



「U-BE-INFINITY®」は、UBEグループが展開する「環境貢献型製品・技術」のうち、特に優れた環境貢献を示す製品に対して付与する環境製品ブランドです。